

## <ポイント版> ぎふ経済レポート（令和2年4月分）

### **【製造業】幅広い業界で新型コロナウイルスの悪影響が見られる**

○製造業は、2月の鉱工業生産指数で、多くの産業で上昇したものの、化学工業と非鉄金属では低下した。ヒアリングにおいては、自動車関係を中心に幅広い業界で新型コロナウイルスの悪影響が出ており、先行きの不透明感を懸念する声が聞かれた。

### **【地場産業】更なる市場環境の悪化が懸念される**

○地場産業は、2月の鉱工業生産指数で、家具以外で上昇した。ヒアリングにおいては、イベント等の中止や販売先の休業等が相次ぎ、市場の悪化を懸念する声が目立った。

### **【設備投資】落ち込みが長期化している**

○設備投資は、工作機械受注額について、国内向けは16か月連続、海外向けは17か月連続で前年同月を下回った。ヒアリングにおいては、先行きの見通しが立たない状況を踏まえて設備投資計画を延期する企業も見られた。

### **【個人消費】厳しい状況のなか、一部に好調さが見られる**

○個人消費は、小売店の3月の販売額については、家電大型専門店とコンビニでは前年同月比で減少したものの、全体では同比で増加した。ヒアリングにおいては、スーパーにおいて客単価の上昇が増収に寄与しているとの声があったが、外出自粛や休業要請によって売上が減少しているとの声も目立った。

### **【観光】新型コロナウイルスの影響が大きい**

○観光は、前年と比較し、新型コロナウイルスの影響によるイベントの自粛やインバウンドの激減により観光地、宿泊施設ともに前年同月を大きく下回った。インバウンドは、政府の入国規制や国際旅客便の減少によりほとんどない状況。ヒアリングにおいては、4、5月に続き6月も休館日を考えているとの声が上がった。

### **【資金繰り】手元資金確保の動きが活発化している**

○企業の資金繰りは、3月の制度融資実績で、件数、金額ともに前年同月比で増加した。金融機関からは業種や規模を問わず資金繰り相談が増加しているとの声が聞かれた。

### **【雇用】雇用環境の悪化が見られる**

○雇用面は、3月の有効求人倍率は、1.64倍と43か月ぶりに1.6倍台の水準にまで低下した。ヒアリングにおいては、生産調整等によって一部に人員の余剰感が高まっているとの声が聞かれた。

### **【景気動向】**

景気動向指数（一致指数）と中小企業の景況感はともに悪化傾向にある。